

質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立東中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や携帯電話やスマートフォンなどへのかかわりなど家庭生活に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していきたいと思います。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いします。

1 普段（月～金）、授業以外にどのくらいの時間を勉強していますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中3	全 国	10.4	24.7	32.8	17.3	9.0	5.7
	東中	16.7	31.0	42.9	7.1	2.4	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 2時間以上の勉強時間が習慣化している生徒が47.7%とほぼ半数近くいました。1時間以上2時間未満勉強している生徒も合わせると90%以上になり、ほとんどの生徒は家庭学習が習慣化しているといえます。
- 学校から与えられた課題には概ねよく取り組んでいます。が、「自分伸ばし」といった自主的な学習はできていません。さらなる家庭学習の充実のためには、家庭での学習の手立てとしての「型」を一人一人の生徒に合った方法で提示しながら指導していきます。

2 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

		している	どちらかといえば している	あまり していない	全くしていな い
中3	全 国	15.2	31.4	37.4	15.9
	東中	33.3	33.3	33.3	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 「している」と答えた33.3%の生徒は、ほとんどが自分の将来を見据えて目標が明確であり、自立的に学習できる生徒です。
- 「どちらかといえばしている」と答えた生徒のうち、全校で取り組んでいる定期テストの計画表を用いた学習の計画は立てられても、日常の学習では、短期計画・長期計画を立てて取り組んでいる生徒の割合はそれほど多くはないと思われます。今後も計画に基づいた学習習慣を身につけ一層学力向上が図れるよう、『年間の学習・生活記録』の活用や教育相談の機会を生かしたりしながら指導を継続していきます。

3 普段（月～金）、授業以外に1日当たりどのくらいの時間、読書をししますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
中3	全 国	6.7	8.9	15.8	21.6	12.6	34.3
	東中	0.0	16.7	26.2	19.0	19.0	19.0

(単位 %)

【考 察】

- 全国と比較すると2時間以上の読書をする生徒はいませんでした。全く読書をしないという生徒の割合が低く、全体的に読書をしているといえます。
- 読書は日常生活の中で望ましい習慣の1つであります。今後は、全く読まない19.0%の生徒に対して読書の習慣が身につけられるよう、教育相談などの機会を生かして、読書の楽しさ、読書の利点、一日の生活の中での読書時間の見つけ方などについて、生徒とともに考えていきます。

4 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをししますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	持っていない
中3	全 国	11.0	8.8	12.9	15.0	13.0	15.5	23.5
	東中	0.0	0.0	14.3	16.7	7.1	23.8	38.1

(単位 %)

【考 察】

- 3時間以上利用している生徒は全くいないので、長時間の利用は良くないと意識した上で利用しているといえます。
- 1時間以上から3時間未満の利用が31.0%あり、適切であるとはいえない長時間の利用生徒が予想以上に多くいました。本校として目標である1時間未満になるように、毎週月曜日のメディアコントロールデーの呼びかけに加えて、メディアを使いすぎない意識を高める取組を工夫しつつ継続していきます。なお、ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

5 朝食を毎日食べていますか。

		食べている	どちらかといえば 食べている	あまり 食べていない	食べていない
中3	全 国	83.8	9.7	4.7	1.8
	東中	95.2	2.4	2.4	0.0

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの生徒は毎日朝食を食べており、全く食べないという生徒はいませんでした。朝から体調不良を訴えたり、授業に参加できないという生徒はほとんどいません。一日の学校生活がいい状態でスタートできる基盤となっています。
- 朝食を食べる大切さについては、保健や食育の観点から「保健だより」「給食だより」などでも繰り返しお知らせしています。今後も学力向上と健康維持の両面から朝食の大切さを訴える指導を継続していきますので、ご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

6 家の人（兄弟姉妹以外）と学校の出来事について話をしますか

		している	どちらかといえば している	あまり していない	全くしていない
中3	全 国	41.9	30.7	20.9	6.4
	東中	42.9	42.9	14.3	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 約85%の生徒が家の人と話をしています。全国平均と比べると、より家の人とのコミュニケーションがとれているといえます。
- 全く話をしていない生徒はおらず、何かしら学校のことが話題となる話をしているといえます。お家の方からの声かけや週1回のメディアコントロールデーなどの取組を利用しているご家庭もあると考えられます。今後も、ご家庭での団らんの時間を大切に、お子様の話に耳を傾けていただけると幸いです。

7 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらか い え ば 当てはまら ない	当てはまら ない
中3	全 国	51.8	40.4	6.6	1.0
	東中	73.8	26.2	0.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の2つの選択肢で100%に達したことから、基本的に話などは最後まできちんと聞く姿勢が身についているといえます。これは、自分だけが持っている情報や考えだけにとらわれず、他から発せられる情報や考えもしっかりと尊重していこうとする姿勢によるものと考えられます。
- 上記のことは、授業中のグループ活動や討論、意見交換などを取り入れた活動が活発に行われている基盤になっています。さらに、「問題文を最後まで読む」「問題を理解できるまで繰り返し読む」などの与えられた課題をよく理解しようとする学習面にも良い成果となって表れていると考えられます。今後も、授業中などでの発言・発表を最後まで聞く様子を確認しながら指導することを継続していきます。

8 学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか。

		学習塾に 通っていない	学校の勉強より 進んだ内容や難 しい内容を勉強 している(2)	学校の勉強 でよく分から なかった内 容を勉強して いる(3)	(2)・(3)の両方 の内容を勉強 している	(2)・(3)の内 容のどちらと もいえない
中3	全 国	39.5	18.3	8.7	27.8	5.5
	東中	61.9	16.7	4.8	16.7	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 本校では61.9%の生徒が「学習塾に通っていない」(4月22日時点)と答えており、学力調査の結果と合わせて考えると、学習塾に通わなくても学習の成果を十分に発揮できている状況です。
- 学習塾に通っている生徒は、苦手分野を補充したり、得意分野を伸ばしたり、自分に合わせた利用をしており、それも今回の学力調査でよい結果として表れている部分であると考えています。

9 学校に行くのは楽しいと思いますか。

		そう思う	どちらかとい え ば、そう 思う	どちらかとい え ば、そう思 わ ない	そう 思 わ ない
中3	全 国	46.2	36.2	11.2	6.2
	東中	64.3	31.0	4.8	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 64.3%の生徒が「そう思う」と答えており、「どちらかといえば、そう思う」の31.0%とも合わせると95.3%の生徒は、楽しく充実した学校生活を送っており、学校生活における期待感も大きいものと考えられます。このように安定した生徒の状態が日々の授業の基盤になっていると思われます。
- 今後も生徒の安定した学校生活を維持し、落ち着いた雰囲気 of 授業を継続させるために、日々充実感を味わわせるとともに、生徒一人一人に十分な自己存在感が得られるように接しながら、楽しい学級・学校づくりを継続していきます。

10 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。

		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
中3	全 国	58.5	26.0	9.8	5.2
	東 中	88.1	9.5	2.4	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 97.6%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という回答をしています。このことから、ほとんどの生徒が、集団で協力したときの一体感や達成感を得られる経験を多くしていると考えられます。
- このことは、グループや学級の友達と学習活動において協力して問題解決をし、達成感を得る喜びを知っていることにも通じていると考えられ、望ましい学習活動を支える基盤になっていると思われます。今後も、授業における学習活動はもちろんのこと、学校行事等での協力場面で、より多くの成功体験を味わわせるように継続して支援いたします。